

1 章 医療法人 社団美心会

1-1. 理事長ご挨拶



インフレ下での医療・介護事業の 厳しい運営

医療法人 社団美心会
理事長

黒澤 功



■ 現在までの流れ

1977年（昭和52年）、年の瀬が近づく12月19日に黒沢医院を開院し、2027年12月には50周年を迎えます。そして、2020年に第1号を発行した年報は、今日ここに第7号となる2025年度年報を発行する運びとなりました。

年報第4号まではコロナ感染症を主に取り上げ、第5号では、日本の労働力不足の中での働き方改革や、大企業を中心とした大幅なベースアップ、円安や物価高騰の状況下での医療・介護業界の厳しい状況について述べました。第6号では、社会保障費の少なさ、高齢者への配慮不足、公立病院への手厚い支援と民間病院の厳しい状況について書かせていただきました。

■ 今後の病院の方向性を決める診療報酬改定

さて、2025年度年報では、本来ならば2026年3月までの記事になるのですが、来年2026年度の年報は50周年の記念誌の発行に代えさせていただく予定のため、本号では、今後の病院の方向性を大きく左右するような内容であった2026年6月の診療報酬改定を中心に書かせていただきます。

現在、一般企業では大幅なベースアップが続いていますが、医療機関は自由に医療費を上げることができないためベースアップをすることは大変厳しい状況です。そのような中でも、美心会では2024年の診療報酬改定でベースアップ評価料が新設される前の2023年度より、表1に示すとおり大幅なベースアップを実施してきました。その結果、ベースアップによる人件費の増加が補助金を上回り、収益は大きく減少しました。2025年10月から2026年3月の半期決算では、人件費は前年同期比で1億7,000万円増加し、設備関係をはじめとする経費も半年で1億円増加するなど、大変厳しい経営状況になっています。このような状況の中、2026年6月に2014年度以来12年ぶりのプラス改定が実施され、診療報酬全体で2.22%引き上げられましたが、物価上昇などの様々なコストアップに追いつかない状態です。

項目		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
収入	賃上げ税制（税控除）	—	48,600,000	22,400,000	—
	補助金	—	—	12,288,000	未
	診療報酬加算（ベア評価料）	—	—	72,018,800	116,490,200
	①収入（人件費充分会計）	0	48,600,000	106,706,800	116,490,200
費用	②人件費増額分（対前年比）	208,666,380	197,331,076	202,290,996	340,000,000(仮)
①－②差額（持出し分）		-208,666,380	-148,731,076	-95,584,196	-223,509,800

表1 診療報酬におけるベースアップ加算・税控除額と、実際の人件費増加額の比較（円）

■ 2026年6月施行の診療報酬改定の特長

今回の診療報酬改定の目玉は、年間救急車受入件数1,500台以上、または年間全身麻酔手術件数500件以上を実施している病院でなければ急性期病院として続けられないという厳しい条件が設けられたことです。幸い当院は、表2のとおり、コロナ流行が始まった2020年は救急車受入件数 2,500台でしたが、コロナがさらに流行した2021年は、他の医療機関で断られた発熱患者を積極的に受け入れたため急激に増加し、2024年には4,500台を超え、群馬県で5位、民間病院ではトップとなりました。その結果、今回の診療報酬改定における急性期病院Bとして残ることができました。

	2025年		2024年		2023年		2022年		2021年		2020年	
多順	医療機関名	件数	略	件数	略	件数	略	件数	略	件数	略	件数
1	高崎総合	6,114	高総	6,284	高総	6,684	高総	6,189	高総	5,447	前赤	5,079
2	太田記念	5,825	太田	5,831	前赤	6,021	太田	5,720	前赤	4,865	太田	5,069
3	前橋赤十字	5,402	前赤	5,780	太田	5,714	前赤	5,121	太田	4,629	高総	5,019
4	藤岡総合	4,795	伊勢	4,728	藤岡	4,445	藤岡	4,504	藤岡	3,972	藤岡	4,117
5	伊勢崎市民	4,785	黒沢	4,558	伊勢	4,391	黒沢	4,136	群大	3,916	群大	3,904
6	黒沢病院	4,462	藤岡	4,271	群大	4,271	群大	4,110	伊勢	3,861	伊勢	3,963
7	館林厚生	4,068	館林	4,150	黒沢	4,218	館林	4,050	黒沢	3,322	日高	2,830
8	群馬大学	4,056	群大	4,014	館林	4,024	伊勢	3,788	館林	3,153	富岡	2,792
9	桐生厚生	3,426	桐生	3,444	富岡	3,061	富岡	3,126	富岡	2,848	館林	2,753
10	富岡総合	3,092	富岡	3,125	桐生	2,920	桐生	2,733	日高	2,712	桐生	2,725
11	日高病院	3,057	日高	3,019	日高	2,869	利根	2,674	桐生	2,643	黒沢	2,519

表2 救急車受入れ件数の経年比較（1～12月；群馬医療情報システムより 年2,000件以上を抽出）

今後、急性期病院Bとして運営するにあたり、今回の診療報酬改定によって収入がどの位上がったかが重要です。今回の改定における大きな改革は、職員への給料をベースアップした医療機関に大きなインセンティブを設けたことです（表3）。さらに、これらを総合して、改定前（2026年5月）に対する改定後の診療報酬を各部門別に%で比較してみると表4のとおりとなります。

	改訂前	新たに賃上げ	継続的に賃上げ
初診	6点	17点	23点
再診	2点	4点	6点
訪問診療 (同一建物以外)	28点	79点	107点
訪問診療 (同一建物)	7点	79点	26点

表3 2026年6月からのベースアップに対する評価料
(上は外来・在宅、下は入院における評価料)

	改訂前	新たに賃上げ	継続的に賃上げ
入院	78点	137点	145点

施設	改訂後の診療報酬 アップ率
黒沢病院 (透析・ER)	119.5%
黒沢病院 (入院)	105.5%
ヘルスパーク クリニック(外来)	101.1%

表4 改定後の診療報酬アップ率

今回の診療報酬改定は、2026年7月4日の日経新聞にもありましたように、単純に個別の医療行為の改定ではなく、2040年までに急性期病院を40%減らす方針のスタートだと思われます。つまり、国民の為に日々汗を流して働き、職員を大切にする病院を「生き残らせる」ための政策です。これまでも国の医療改革に先駆け、国民に必要な取り組みを実行してきたように、今後も常に国民の為になる事を国の政策に先んじて実行することが必要と考えています。今後も、職員一丸となり頑張りましょう。

2025年度 理事長講演、記事掲載等

● 表彰

2025年 9月 9日 黒沢病院（代表：黒澤 功）に、救急医療功労者厚生労働大臣表彰



● 講演会

2025年 4月 4日 生活習慣病を治し社会への貢献

10月26日 今から治せる生活習慣病

2026年 3月 8日 生活習慣病を治し健康長寿

群栄化学工業株式会社

第30回美心祭

第24回健康支援教室（高崎芸術劇場）

● テレビ放送

2025年 7月 2日 介護ICT化及び外国人スタッフの活躍について

10月26日 検査や治療に理解を

NHKニュースほっとぐんま630

群馬テレビ（理事長出演）

● 上毛新聞掲載（理事長によるコメントが掲載されているもの）

2025年 9月11日 黒沢病院（高崎）に厚労相表彰 救急医療功労者

9月12日 黒沢病院「アクアブレーション治療」県内初導入

10月27日 美心祭で検査や医療に関する講演 健康づくりを考える

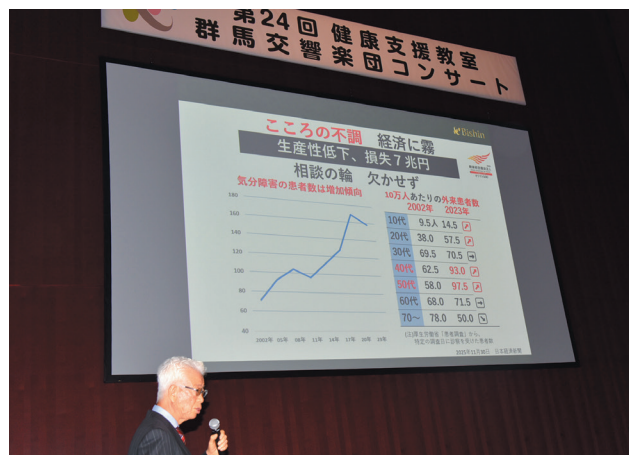
11月12日 3校と幼稚園に図書購入費 美心祭

2026年 2月16日 看護師や介護士37人が学び発表

3月10日 コンサートや健康相談人気 黒沢病院運営の美心会



美心祭における講演（ヘルスパーククリニック）



健康支援教室における講演（高崎芸術劇場）

1-2. 副理事長ご挨拶



5S活動の思い出

医療法人 社団美心会
副理事長

黒澤 由美子



1977年12月19日、中居町3丁目で黒沢医院を開設し、来年は50周年を迎えます。

その間に数多くの方々からご支援、ご教示をいただき、医療の本質を求めて努力してきたつもりですが、まだまだ追求していくべき事が日々見つかります。その中でも、開業後、最初に考えて実行したのが5S活動です。

30年ほど前、沖電気様から当院に転職された方から、「沖電気では5S活動をしている」と聞き、私は早速工場を見学させていただきました。当時、医院から病院へ移行して数年が経ち、スタッフも増え、医薬品をはじめ高額な機器や多くの物品がある中、「安全で効率よく働くためにはどうしたらよいか」と常に考えていました。沖電気様の工場を見学させていただいた際、ゴミ一つ落ちておらず、また、すべてが整っていました。まさに整理・整頓・清掃・清潔が行き届いていたのです。本当に素晴らしいと思い、理事長に報告しました。

その翌週には早速、当院でも5S活動を始めることにしました。それから30年にわたり、毎月第1火曜日に活動が続けることができています。スタッフからは「美心会は始めたら止めないのが特徴」と言われますが、その5S活動の成果として「病院らしくない病院」「きれいな病院」「美しい病院」と言ってもらえるようになりました。この事は良い医療の原点の一つだと思っています。

整理・整頓・清掃・清潔・しつけ（習慣）は1日にしてならず、でもあります。私は30年間続けてきた毎月1回の5S活動を当法人の宝物だと思い、これからも続けていく所存です。

● 2025年 5Sにおける重点項目

年12回実施のうち、重点的に確認を行った回数

ホコリ	12回	ホワイトボードの管理	2回
コンセント、電源タップ、コードの管理	6回	壁の傷	1回
網戸の汚れ、破損	5回	カーペットの汚れ	1回
水回り、蛇口の汚れ	4回	掲示物の管理	1回
窓ガラス、サッシの汚れ	4回	換気口のホコリ、汚れ	1回
虫の死骸、蜘蛛の巣	3回	ブラインドのほつれ、汚れ	1回
不用品の管理	2回	エアコンフィルターの清掃	1回
消毒用アルコールの期限管理	2回	床に危険物	1回
加湿器の清掃、管理	2回	植物の管理	1回
異動者、退職者の名前の管理	2回	戸棚の清掃	1回
カビ	2回	清潔な物品の管理（置き場所等）	1回
冷蔵庫の管理（期限切れ等）	2回	扇風機の管理	1回
感染性廃棄物の管理	2回	椅子の脚の汚れ	1回

1-3. 理事長補佐ご挨拶



地域に根ざした医療を未来へつなぐ

医療法人社団美心会理事長補佐
透析センター長

大木 亮



2025年度の年報発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

平素より当法人の運営にご理解とご支援を賜っております地域の皆様、関係機関の皆様に心より御礼申し上げます。また、日々地域医療の最前線で尽力している職員の皆様に深く感謝申し上げます。

私は2018年4月に群馬大学泌尿器科から黒沢病院に就職しましたが、あっという間に7年が経過しました。これまで法人運営に携わりながら美心会を内部から見てまいりましたが、創設以来受け継がれてきた理念と使命について理解を深める一年となりました。

美心会においても、地域の医療ニーズの変化に的確に対応しながら、急性期から地域包括ケア、在宅医療、介護サービスまで切れ目のない支援体制の充実に取り組んでまいりました。さらに人間ドックやメディカルフィットネスの併設など予防医療にも力を入れており、地域の皆様の健康を維持することも当法人の大切な役割であると考えております。

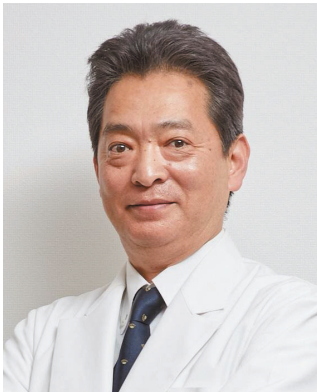
令和8年度診療報酬改定に向けて電子カルテや医療DXの活用、多職種連携の強化、人材育成への投資を進めることで、持続可能な地域医療体制の構築を目指しております。診療報酬改定が重視する医療機関の機能分化・連携や医療DXの推進は、まさに当法人が進めてきた方向性と一致するものと考えております。

一方で、人口減少や高齢化の進展、人材不足など、地域医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。しかしながら、私たちは地域住民の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、予防・医療・介護・福祉の連携をさらに深めていき、「病気にならない予防医療」、そして「治す医療」と「支える医療」の実践に努めてまいります。

今後も理事長を補佐しながら、法人理念の実現と地域医療への貢献に全力を尽くしてまいります。引き続き皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年報が当法人の取り組みをご理解いただく一助となれば幸いです。皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

1-4. 特別寄稿



黒沢病院2025年度年報に寄せて

栗田 浩樹

埼玉医科大学国際医療センター 副院長・救命救急センター長
脳卒中センター長・脳卒中外科教授・診療部長
日本脳卒中学会理事・脳卒中センター中央認定委員長
日本脳卒中の外科学会理事・技術認定委員長

黒沢病院の皆様、いつも大変お世話になっております。2013年に貴院に脳卒中センターが開設されてから、今日まで発展は本当に目を見張るものがあります。2024年度から群馬県内で5つしかないPSC core施設に認定され、現在貴センターは北関東を代表する脳卒中診療施設となりました。また日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本脳神経外傷学会認定研修施設、日本脳ドック学会認定研修施設等、若手医師の教育機関としても高く評価されており、貴センターから巣立った多くの若手医師が、現在全国で活躍しています。「蒔いたように花が咲く」という言葉がありますが、黒澤理事長を始め、大森副院長、小倉脳卒中センター長が蒔いた種が今、まさに開花して結実しているのだと思います。心にどんな種を蒔くかで人生（組織）が決まるというのは本当ですね。いつも眩しく貴院の発展を拝見しています。

また、設立以来、貴センターは一貫して本学脳神経外科プログラムの専攻医教育にも多大なご貢献をいただいております。現在まで貴院をローテーションさせていただいた医局員は20名以上に上ります。2025年度も臺もなみが1年間研修させていただき、また米国に留学させていただいた塚越瑛介が帰院して中堅の木村辰規とともに臨床を引っ張りました。小林広樹は米国留学のチャンスをいただき、吉田磐二郎も新天地で頑張っております。恒例になりましたが、今まで常勤医師としてお世話になった医局員の写真を以下に添えます。皆様の温かいご指導に改めて深謝申し上げます。



1-5. 医療法人 社団美心会の理念と目標

《 経 営 理 念 》

良質な総合医療サービスの提供

美心会は、保健・医療・福祉・介護の各サービス・セミナーの企画と開催を事業としています。

《 2025年度 ISO品質方針 》

1. 地域社会に貢献できる総合医療サービスを提供する
2. 全職員は力量を高め、働きやすい職場をめざす
3. 地域包括ケアシステムを強化し、地域社会に貢献する

《 2025年度 ISO品質目標 》

1. すべての部署は、ご利用者様受入を増加させる
2. 急性期医療と高度医療を継続・発展させる
3. すべての職員は、ご利用者様ファーストの接遇を行う
4. 職員は常に健康維持に努め、感染予防を徹底する
5. 仕事は「正しく・速く・落ち着いて」行う
6. コスト意識を高め、経費削減と業務の見直しをする

美心会マーク [Bishinkai Medical Corporation CI]



美心会の“心”がモチーフです。3つの楕円は、保健・医療・福祉、同時に過去・現在・未来も表しています。

現状を打破して新しい未来に向かおうとする上昇志向＝「ブレイクスルー」を表現したマークです。

当法人は、常に上昇志向を持ち、私たちが提供する医療サービスを通じて、人々が健康で安心して生活できるよう、ご支援することを目指しています。

1-6. 美心会におけるDX推進

(1) 医療DXへの歩み：受診者価値の創造と現場革新への展望

黒沢病院 システム部 白井 徳夫（部長）

(2) 病棟におけるDX ～ICT活用と看護部の取り組み～

黒沢病院 看護部 小林 有希（課長）

(3) 健診サービスにおける安心と快適さを支える医療DXの推進

高崎健康管理センター 吉原 尊樹（事務長）

(4) 当法人関連介護施設におけるDXの推進

黒沢病院 統括技術室 三輪 篤史（室長）

(5) 日本のDX元年に開設したカーサ・デ・ヴェルデ黒沢

介護付有料老人ホーム カーサ・デ・ヴェルデ黒沢 上野 哲哉（施設長）

(6) 老健くろさわにおけるDX推進

介護老人保健施設 老健くろさわ 金井 秀樹（副施設長代理）

(7) 介護現場におけるDXの推進 ～より良いサービス実現のために～

社会福祉法人マグノリア2000 特別養護老人ホーム シェステさとの花
経営戦略室 羽鳥 賢治（室長）

美心会におけるDX推進

(1) 医療DXへの歩み：受診者価値の創造と現場革新への展望

黒沢病院 システム部 白井 徳夫（部長）

当院における医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の歴史は、直面する課題を技術で解決しようとする「開拓者精神」の積み重ねです。本年報では、これまでの主要な歩みと、直近の取り組み、そして未来の展望についてご報告します。参考までに、2021～2025年度に当院が導入したDX関連の機器、システムを次頁に示します。

● 独自開発から始まったDXの原点

当院のシステム化の歴史は1989年に遡ります。当時、人間ドックを開始するにあたり、既存のパッケージソフトでは対応しきれないニーズに応えるため、システムを自社開発しました。この「自分たちに最適な仕組みを自ら構築する」という姿勢が、2001年のオーダーリングシステム（IBM AS400）稼働、そして2009年のヘルスパーククリニック移転にともなう電子カルテ（SSI社）の本格稼働へと繋がっています。

● 「受診者視点」を具現化する誘導・出力システム

2021年に導入した人間ドック・健診誘導支援システムは、詳細は別稿で述べますが、当院のDXが「効率」と「ホスピタリティ」の両立を目指していることを示す好例です。重要な点は、本システムを単に導入しただけでなく、受診者の視点に立って様々な条件設定の変更を行い、常に最適化を進めていることです。

また、理想科学工業株式会社の高速プリンター（GDシリーズ）を導入し、人間ドックの結果表は「冊子」として、一般健診の結果は「封筒封入」された状態で自動出力される体制を整え、ミス防止と発行スピードの劇的な短縮を実現しています。

● 三つの目的を果たす、近年の多角的なシステム導入

この1～2年は「ご利用者利益の最大化」「業務効率の向上」「職員の負担軽減」という三つの目的の達成に向け、最先端技術の導入をさらに加速させました。

- **ご利用者利益と見落とし防止**：肺Xp（エックス線）のAI画像診断を導入し、ダブルチェック体制を強化して診断精度と安全性を高めました。さらに、安全な輸血医療を支える輸血システムも構築しています。
- **安全確保と職員の負担軽減**：入院患者さんやご入居者の動静をリアルタイムで把握する「見守りシステム」を導入。夜間等の見回りの負荷を軽減しつつ、転倒等のリスクに迅速に対応できる体制を整えました。
- **情報共有の迅速化と効率向上**：院内PHSをスマートフォンへ刷新し、チャットや写真を用いた多職種間のスムーズな連携を実現。また、会議やカンファレンスにおけるAI議事録の活用により、書類作成の手間を大幅に削減しました。

現在は、さらなる業務効率化を目指し、SSI社の新健診システムへのバージョンアップに向けた協議を重ねています。当院にとってのDXとは、単なるIT化ではありません。温かみのある医療・ケアを提供し続けるために、デジタル技術を賢明に活用し、ご利用者と職員の双方に豊かな環境を創造していくプロセスです。今後も地域社会に貢献する質の高いサービスを追求してまいります。

《 当院の2021～2025年度におけるDX推進 》

■ 2021年度実績

- ・高崎健康管理センター タブレット（iPad）誘導支援システム導入運用開始（端末・インフラ整備）
- ・診療費支払機 クレジット対応機に入替。入院病棟へ増設
- ・ValeoPro：Wi-Fi設備設置
- ・入院病棟：Wi-Fi設備設置

■ 2022年度実績

- ・オンライン資格確認（マイナンバーカード）機器設置
- ・電子カルテ「診療情報提供書プログラム」導入
- ・ヘルスパーク外来・黒沢病院ERエリア：Wi-Fi設備設置

■ 2023年度実績

- ・電子カルテ「歯科診療予約システム」稼働
- ・電子カルテ「長期署名システム」稼働

■ 2024年度実績

- ・電子カルテ「輸血管理システム」稼働
- ・総務部「人事労務システム」稼働
- ・電子カルテ データ抽出プログラム説明会開催
- ・放射線部「AI解析システム」稼働
- ・透析センター「透析情報管理システム」稼働
- ・オンライン資格確認端末6台増設
- ・電子カルテ「ダッシュボード」稼働

■ 2025年度実績

- ・情報系PC Windows10からWindows11への入替作業（240台）
- ・総務部「デジタルホワイトボード」導入
- ・総務部 安否確認システム導入
- ・薬剤部 薬品管理装置、調剤支援システムサーバー入替
- ・AI議事録システム導入
- ・ナースコールシステムサーバー入替
- ・スマートフォン導入
- ・モバイル端末用電子カルテシステム導入
- ・セントラルキッチン用システムサーバー入替
- ・ナースコール連動 病棟「見守りカメラ」使用開始

美心会におけるDX推進

(2) 病棟におけるDX ～ICT活用と看護部の取り組み～

黒沢病院 看護部 小林 有希（課長）

看護部では、病棟におけるDXを積極的に推進し、3つの取り組みを段階的に導入しました。

2025年8月：セル看護方式／11月：スマートフォン／2026年2月：見守りカメラ

1. セル看護提供方式[®]の導入

セル看護提供方式[®]は、動線・記録・配置の3つの無駄を省き、患者さんのそばで仕事ができる環境をつくることを目的とした看護方式です。従来は、ケア終了後にスタッフステーションへ戻って記録していましたが（写真上）、導入後は、病室ごとの受け持ち制とPCカートの活用により、ベッドサイドで記録が可能となりました（写真下）。その結果、「患者さんとの会話が増えた」「病態変化の早期発見につながった」「看護師の移動距離が減り、業務効率が向上した」といった効果が現れています。一方で、業務が煩雑化してくるとタイムスケジュールに沿えなくなる等の課題もあり、今後、さらに工夫を重ねていく必要があると考えています。



2. スマートフォンの導入

通話に加えてチャット、電子カルテ閲覧、写真・動画撮影などの機能を1台に集約したスマートフォンの導入により、看護師は患者さんの状態をその場で確認し、必要な情報を迅速に共有できるようになりました。特に画像や動画を用いた情報共有は、医師や他職種との連携をよりスムーズにし、判断の迅速化に大きく寄与しています。

3. 見守りカメラの導入

見守りカメラ導入にあたっては、プライバシーへの懸念や患者さん・ご家族からの否定的意見を心配していました。しかし実際には、「事故が防げるのであれば安心」という肯定的な声が多く寄せられました。必要な患者さんのみ選定して設置する運用が理解につながっています。

2025年度は、2024年度と比較して転倒・転落頻度の減少傾向が認められており、これら3つの導入・活用による効果である可能性があります。今後も運用方法の検討や改良を重ねていきます。

病棟DXは、単なる機器の更新ではなく、「誰もが見える・つながる・対応できる」新しい看護体制の構築を意味します。セル看護提供方式[®]、スマートフォン、見守りカメラの導入は、医療安全の向上、業務効率化、患者満足度の向上に寄与し、黒沢病院の看護を次のステージへ導く大きな一歩となりました。

また、若い世代の看護師に「変化し続ける医療の姿」を実感してもらうことも重要です。働き方改革をはじめとする医療現場の変革は、医療従事者自身が古い価値観から脱却し、柔軟に変化する努力が求められています。ICTやデバイスは、あくまで“道具”です。道具に頼るのではなく、未来を創るために使いこなす文化を育てていきたいと考えています。

美心会におけるDX推進

(3) 健診サービスにおける安心と快適さを支える医療DXの推進

高崎健康管理センター 吉原 尊樹（事務長）

当センターが目指すDXは、単なる省力化に留まらず、受診者の視点に立った「ホスピタリティの向上」と「業務効率化」の高度な両立を実現することを本質としています。本稿では、受診者数増加の原動力となった誘導支援システム導入の取り組みとその成果、今後の展望についてご報告いたします。

● 誘導支援システムの導入

受診者数の増加とスムーズな受け入れ体制の確立に最も大きく貢献したのが、2020年度に導入した「人間ドック・健診誘導支援システム」です。

本システムでは、受診者一人ひとりに専用のタブレット（iPad）をお渡しする体制を採用いたしました。この端末を通じて効率的な受診案内をリアルタイムでおこない、個々の工程管理を徹底した結果、導入前と比較して全体の検査時間を約30分短縮することに成功しました。さらに、滞留が解消されたことで、1日当たりの受け入れ人数を約20名増加させるという成果を上げています。

本システムの導入は受診者の検査待ち時間の快適性や安心感にもつながっています。例えば、検査案内をスタッフによる直接的な声かけからタブレットのシグナル音によるアナウンスへ変更となったことで、受診者による聞き逃しや、スタッフによる受診者探しといったロスがなくなるとともに、以前よりも静かな環境を提供できるようになりました。また、コロナ禍前に館内に設置していた新聞や雑誌に代わり、タブレット内の電子書籍アプリを採用することで、衛生面を担保しながら、快適な待ち時間の提供を維持しています。

さらに、運用の過程では、当初の一律な誘導ルールを常に見直し、胃部検査（内視鏡・バリウム）の特性に応じた最適化もおこないました。特に経口内視鏡を受診する方については、検査後1時間の絶食制限という身体的負担を考慮し、優先的に内視鏡検査を終えられるようシステムを設定いたしました。内視鏡検査を早期に終了させ、その後に他の検査をおこなう動線を構築したことで、全行程終了後、できるだけ早くお食事をお召し上がりいただける環境を整えました。この運用は、受診者の負担を大きく軽減し、当センターが掲げる「効率とホスピタリティの両立」を具現化する好例となっています。

● 今後の展望

当センターは、地域の方々の健康維持を支える拠点として、質の高い医療サービスと快適な受診環境の提供に努めてまいりました。その結果、当センターにおける人間ドックの年間受診者数は、2020年度の33,078人から2025年度には42,078人へと、この6年間で27%の大幅な増加を記録いたしました。今後も、多くの方に選ばれ続ける健診機関として、最先端のデジタル技術を柔軟に取り入れながら、受診者一人ひとりに寄り添った質の高い健康管理サービスを提供し続けてまいります。



美心会におけるDX推進

(4) 当法人関連介護施設におけるDXの推進

黒沢病院 統括技術室 三輪 篤史(室長)

超高齢社会の進展にともない、介護サービスに対する需要が高まる一方で、介護を支える生産年齢人口の減少や社会保障費の増大、介護人材確保の困難化など、様々な課題が顕在化しています。こうした状況に対応し、持続可能な介護サービスを提供していくためには、ICTやデジタル技術を活用したDXの推進は重要な取り組みの一つとなっています。

美心会では、病院やヘルスパーククリニックだけでなく、関連する介護施設においてもDXを積極的に推進しています。この後に、介護付有料老人ホーム「カーサ・デ・ヴェルデ黒沢」、介護老人保健施設「老健くろさわ」、および特別養護老人ホーム「シェステさとの花」の3施設におけるDX推進について紹介します。各施設とも見守りシステムを導入し、それを活用することで24時間体制でご入居者の転倒などの事故に備える体制を整えました。また、「シェステさとの花」は県の介護テクノロジー導入モデル事業に参画し、DXの一層の推進とその成果報告をおこなうなど、ご利用者へのより充実したサービスの提供と、職員の業務効率化や負担軽減に取り組んでいます。

一方で、介護施設を取り巻く環境は地域ごとに大きく異なります。過疎化が進む地域では、職員の高齢化や人材確保の困難さ、限られた経営資源の中で地域の高齢者を支えている現状があります。たとえば特別養護老人ホーム「シェステやまの花」のように、そのような環境においては、新たなICT機器やシステムの導入を進めることよりも、ご利用者や職員が長年培ってきた運営体制を維持しながら、地域の実情に即した介護サービスを継続することが重要となる場合もあります。

美心会では、DXは導入そのものを目的とするものではなく、ご利用者へのサービスの質の向上と持続的な運営を実現するための手段であると考えています。そのため、関連する各施設の地域特性や人員体制、利用者ニーズなどを踏まえながら、それぞれの実情に応じた形でDXの活用を進めてまいります。

以下に、関連する各介護施設におけるDXへの取り組み状況を紹介します。

美心会におけるDX推進

(5) 日本のDX元年に開設したカーサ・デ・ヴェルデ黒沢

介護付有料老人ホーム カーサ・デ・ヴェルデ黒沢 上野 哲哉（施設長）

● 開設時に導入されたICT機器とシステム

カーサ・デ・ヴェルデ黒沢が開設した2018年は、経済産業省が「産業界におけるデジタルトランスフォーメーションの推進」を発表した日本のDX元年にあたります。DXの目的は、質の高いサービスの提供と、職員の働きやすさを両立するためです。基本方針として、ご入居者中心のケアを支えるデジタル基盤の整備、業務効率化と情報の一元管理、職員の負担軽減と専門性発揮の支援、ご家族とのコミュニケーションの質の向上を目指しています。

1. 新しい介護支援ソフトの導入

「ご入居者の近くで入力できる介護支援ソフトを導入したい」という想いから、介護福祉士が開発に関わり、当時は珍しかったスマートフォンやiPadで使用可能なビーシステム社の「First Care」を選定し、併せてiPadを導入しました。ケア記録の入力や入居者情報の確認がiPad上で可能となり（スマホでも簡易入力可）、介護・看護職員は有線LANとPCから解放され、ご入居者の傍で事務作業をおこなえるようになりました。

2. スマートフォンを活用したナースコール&見守りカメラ

当時、法人内の主要な通信手段はPHSでしたが、今後加速するDXを考えるとスマートフォンの導入は急務でした。そこで、スマートフォンと連動するコードレスナースコール、さらにコールボタンと連動して居室内のカメラが起動する「安心の絆」を採用しました。

3. 見守り介護ロボット

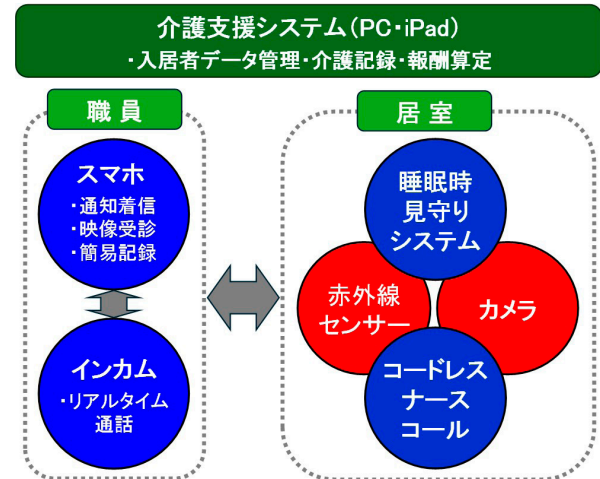
当ホームは、健康なうちに入居し、介護予防に取り組むことを目的とした施設であり、概ね65歳以上であれば自立の方も入居可能です。そのような方々に見守りとはいえ夜間訪室することは睡眠の妨げになりかねません。また、限られた夜勤者をケア優先にする必要もありました。そうした課題を解決するために、マットレスの下に設置した高感度センサーにより睡眠・離床、呼吸・脈拍、室温を24時間モニタリングし、スマートフォンやPCに通知できるASD社（当時）の介護施設向け睡眠見守りシステム「まもる〜の」を導入しました。

● システムの充実

これらに加え、昨年度はWi-Fiを利用したインカム（骨伝導タイプ）を導入しました。既存のWi-Fi環境を活用することで、ノイズの少ない高音質なコミュニケーションがおこなえるようになり、ご家族からの問合せにも迅速に対応できるようになりました。また、こうしたICT機器による介護の質の向上を可視化するため、「ハカルト」というタイムスタジアアプリを導入し、データの収集・分析をおこなっています。

● 現状の課題と今後の取り組み

開設から8年が経過し、導入当時は最新だったシステムについても、新しいバージョンの開発の遅れや機器の不具合が発生してきていますので、公的な補助金を活用して、これらのアップデートをおこなう必要があります。今後は、法人全体での情報管理や、医療部門との連携も考えたDXの推進に取り組んでまいります。



美心会におけるDX推進

(6) 老健くろさわにおけるDX推進

介護老人保健施設 老健くろさわ 金井 秀樹（副施設長代理）

老健くろさわにおけるDX推進は、まさに「デジタル元年」と呼べる一年となりました。当施設では約5年前から、DXの理念である「デジタル技術を活用し、業務やサービスの質を根本から高めること」を目標に、どのような形が最適か検討を重ねてきました。単にICT機器を導入するのではなく、職員全員が使いこなし、ご入所者の生活の質向上につながる仕組みであることを重視してきた点が特徴です。

● ICT基盤の整備と導入内容

まず、施設全フロアにWi-Fi環境を整備し、DX推進の基盤を構築しました。そのうえで、以下のICT機器を段階的に導入しました。

1. コードレスコールシステム

ご入所者が常に手元に置けるため利便性が向上し、コードの絡まりによる事故リスクも解消。

2. 見守りカメラ

ベッド周囲の状況をPCやスマートフォンから確認可能。訪室せずに安全確認ができ、夜間業務の負担軽減にも寄与。

3. 見守りセンサー

心拍数・呼吸数・睡眠状態を自動で検知。起き上がりや離床の兆候をアラームで通知し、リスク対応を強化（右上：センサー表示のイメージ図）。

4. インカム

遠方にいる職員とも即時に連携でき、情報共有が迅速化。

5. ケアパレット (iPad)

ご入所者のそばで記録入力が可能となり、業務効率と安心感を両立（右写真は、インカムをつけてケアパレットを操作しているところ）。



これらのうち、「カメラ」と「センサー」を中心とした見守り体制により、入所者の方々の状態をリアルタイムで把握できる環境が整いました。その結果、職員の身体的負担が軽減され、働きやすさの向上にもつながっています。さらに、インカムの全職員装着により、遠方の職員とも即時に連携できるようになり、情報共有や電話取次ぎの効率が大幅に改善しました。また、ケアパレットの導入によって、ご入所者の近くで記録入力が可能となり、事務作業の効率化とご入所者への安心感の向上を同時に実現しています。

● 現状の課題

一方で、転倒件数については、現時点では大きな改善には至っていません。ICT機器の導入はあくまで手段であり、得られたデータをどのように活用し、ケアの質向上につなげるかが今後の課題です。現在、職員間でデータの見方や活用方法を共有し、より効果的な運用を模索している段階です。

● DX推進の目的とこれから

今回の一連の導入はゴールではなく、DXの理念を実現するためのスタートラインにすぎません。ICTによって効率化された時間を、入所者の方々への直接的なケアに振り向け、尊厳を支える関わりを増やすことこそが、老健くろさわのDX推進の目的です。今後も、デジタル技術を活用しながら、入所者の方々が笑顔で過ごせる生活を支え、職員にとっても働きやすい環境づくりを進めてまいります。

美心会におけるDX推進

(7) 介護現場におけるDXの推進 ～より良いサービス実現のために～

特別養護老人ホーム シェステさとの花 経営戦略室 羽鳥 賢治（室長）

2025年度は、さとの花が情報収集や検討を重ね温めてきたDX推進構想が花開いた年でした。その起爆剤は「群馬県介護テクノロジーモデル事業参画」です。これを第一段階として、「ご利用者へのサービス向上」、「介護スタッフの負担軽減」、「日常業務の効率化」の共存を目的にICT機器の導入を進めております。

● ご利用者へのサービス向上のためのICT機器導入

- ・見守りシステム（センサー：写真左、カメラ：写真中央）
- ・排尿予測システム（写真右は排尿パターン記録）
- ・自動体交マットレス

ご利用者の安眠のため、訪室時の覚醒防止を目的に全床に導入。無駄なオムツ交換を回避するなど、品質方針である「ご利用者本位の心安らぐサービス」を具現化しました。更にカメラの導入は、実際に記録が残るため職員研修等に活用され、サービス向上にも大いに貢献しています。



● 介護スタッフの負担軽減のためのICT機器導入

- ・クラウドに特化した介護記録ソフト
- ・SIPサーバに連動したインカム
- ・多機種（iPhoneからPHSまで）に連動したナースコールシステム

近年の外国人スタッフの増加や職員の高齢化に対し、介護技術の底上げを目的として、音声や画像記録のデジタル化やコミュニケーション促進のツールとしてインカム等を導入しました。危惧されていた混乱もなく、従来から使っていたかのように職員に受け入れられています。



インカムとタブレットを活用した記録作成

● 日常業務の効率化のためのシステム自社開発

- ・全国TKC会計と連携した会計仕訳システム
- ・あんしん総合相談システム（高崎市への報告を一元管理）
- ・ICカードによる勤怠打刻管理システム
- ・事務処理システム（発注、口座振替、総合振込、立替金）、他

介護業界においてもテクノロジーの進化は留まることを知りませんが、さとの花ではそれらに振り回されることなく、無理のあるDXはおこなわず、DX推進の次段階として「現行ICT機器の連携と深化」を進めてまいります。介護には様々な職種が関わっており、いくら最新のICT機器を導入しても、職種間の情報共有が十分とは言えない状況にあります。それらの情報を有効利用できるよう、既存資源であるパソコン、タブレット等を活用した情報共有や、ご利用者、ご家族への情報発信等のサービス向上となる外部連携も視野に入れたDXを推進していきたいと考えております。



ICTデータを活用した情報共有

1-7. 医療法人 社団美心会の健康経営に関する外部評価

企業活動における「経営」と職員の「健康」は二律背反ではなく、相互補完の関係にあり、かつ相乗効果を生む両輪となるものです。美心会は2020年度より健康管理室を設置して、職員の健康維持・増進と職場環境の改善に多くの労力とコストをかけて取り組んできました（詳細は、健康管理室の項参照）。その成果は、経産省が主導し日本健康会議が認定する健康経営優良法人認定制度ホワイト500にチャレンジすることで客観的に評価しています。ここでは、このホワイト500評価結果について紹介します。



● ホワイト500（健康経営優良法人）評価の変遷と2025年度評価の内訳

美心会の健康経営度の評価結果について、表1に過去5年間の総合評価結果の推移を示します。

これまで健康経営優良法人認定を9年連続、ホワイト500認定を通算8回（2020年度以降は6年連続）受けています。毎年、参加企業数が増加している日本中の総ての職種の大企業の中で、美心会は総合評価の偏差値を上げ続け、2021年度以降は総合順位でトップ50社以内です。

表1. 評価の変遷（直近5回）

項目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
総合順位	1 - 50位	1 - 50位	1 - 50位	1 - 50位	1 - 50位
総合評価	65.4	65.8	66.9	66.4	66.5
回答企業数	2869社	3169社	3520社	3869社	4175社
認定	ホワイト500	ホワイト500	ホワイト500	ホワイト500	ホワイト500

表2は、2025年度における美心会の評価結果（2026年認定）の内訳で、「経営理念・方針」、「組織体制」、「制度・政策実行」、および「評価・改善」の4項目と、それらから算出される「総合評価」の合計5項目について、参加企業の中での美心会の位置を示しています。美心会は、5項目中で総合評価を含む2項目の偏差値が業種中トップでした。

表2. 健康経営度調査フィードバックシート「評価の内訳」

項目	美心会	回答法人トップ	業種トップ	業種平均
総合評価	66.5	68.3	66.5	48.8
経営理念・方針	63.4	69.3	67.0	49.4
組織体制	66.8	67.4	67.0	48.9
制度・政策実行	65.5	71.9	67.3	47.0
評価・改善	69.9	71.2	69.9	49.3

美心会の健康経営は毎年進歩しながら、高いレベルで成功しつつあると言えます。健康経営の更なる充実を図るには黒字経営であることが必要です。美心会は、患者さんや地域の方々、そして職員のために一生懸命汗をかいて事業の拡大・安定に努めることが自然と利益につながると考えています。そしてその利益を今後も地域や職員に還元しつつ、地域とともに発展していきます。

健康の秘訣は「良く働き、旅と運動と美味しい物を食べる事」

医療法人 社団美心会 理事長 黒澤 功

昨年発行の第6号は、1年間の主な旅行を思い出しながらかかせていただきましたが、今読み返してみると大変懐かしく楽しい気持ちになったことから、今号もまた、2025年の思い出深い旅について書いてみました。最近、多くの人から「良く旅行をしますね」と言われます。私の旅行歴は、70歳までは正月に1週間リゾート地で休養し、5月の連休には先進国ではなく発展途上国へ社会勉強に行くことでした。そして、77歳で「カーサ・デ・ヴェルデ（緑の家）黒沢」と命名した、高級な高齢者住宅（100床）を造り、自分なりに美心会として地域包括システムを完成したと考え、78歳からは日曜日は休み、旅行も年に4～5回行くようになりました。それでは2025年の1年間の健康増進を目的とした旅の紹介を始めます。

● 2025年1月4日～12日 オーストラリア（ブリスベン、ヌーサ、ゴールドコースト）：7泊8日

2025年1月3日の夜、毎年恒例の新年会を美心会グループのスタッフ約300人と盛大におこない、1月4日の朝から初仕事をして、午後ブリスベンに向け高崎を出発。現地には5日の朝に着きました。着いてからすぐにオーストラリア在住の日本人の友人の運転でゴルフ場へ直行。汗を流した後、3時間位かけて高級リゾート地ヌーサへ移動し、辛いインド料理を食べて休みました。翌朝は6時に起きてゴルフを2ラウンドし、2泊3日のヌーサを楽しみました。その後、ゴールドコーストへ移動し、ここでも朝7時に起床してゴルフを2ラウンド、夕食後は23時まで公営カジノ、という毎日を繰り返し、12日に帰国しました。



ヌーサのゴルフ場にて海をバックに

● 2月19日～2月28日 オアフ島、ハワイ島、マウイ島、ゴルフ三昧：9泊10日

成田空港の鮎屋で皆で前祝をして良い気分になり、19日20時35分に成田を出発。翌朝8時25分にオアフ島に着きました。今回はハワイが初めての者がいたので1日観光をし、夜はハワイ在住の夫妻と飲みました。翌日は朝からゴルフを1ラウンドし、午後にハワイ島へ移動。ハワイ島在住の日本人の知人に運転ガイドをしてもらい、21日から23日は毎日違うコースで健康増進のためのゴルフを楽しみました。22日にはゴルフの後に大噴火したばかりの「キラウエア火山」を見学し、24日にコナ空港よりマウイ島へ向かいました。ここでは、松山英樹選手が2025年1月のPGAツアーで－35で優勝した「カパルアリゾートゴルフクラブ」という名門ゴルフ場に行きましたが、グリーンの左端にオンしても右の崖下に落ちる様なグリーンが非常に難しいコースで、松山選手の－35は信じられないほどの驚きでした。そして、ここマウイ島でも、24日、25日、26日とゴルフをし、27日には空路でオアフ島に戻り、その夜はまた、オアフ島在住の夫妻と夕食を共にして、28日に無事帰国しました。



「カパルアリゾートゴルフクラブ」のコース内カート道にて海をバックに

● 4月28日～5月5日 今年のハイライト「スコットランドの歴史とスコッチウイスキーの旅」 ：7泊8日

4月28日9時55分に羽田空港を出発し、14時間25分かけてロンドン・ヒースロー空港のメインターミナルに到着。広い空港のため空港内でタクシーに乗り、一度公道に出て、ローカル線のグラスゴー空港行きの搭乗口へ。乗り継ぎに苦勞してやっと搭乗し、1時間25分かけて19時50分にグラスゴー空港に到着し、ホテルへ。4月29日はグラスゴーの各所を見学。30日はフェリーにてスカイ島へ入り、多くの名所や古跡を見学。5月1日は、一時期ネッシー（未確認生物）で有名になったネス湖のクルーズへ行きました。



エディンバラ城にて



ネス湖畔にて

2日にはスコットランドのハイランド地方にある、1798年創業の名門蒸留所へ。シングルモルトウイスキー「ブレアリアル」の製造拠点で、最高位、中位、低価格の3種類のウイスキーを有料で試飲しました。最高のものはさすがに美味しく、購入しようとしたが、スコットランドのガイドに、同じ物が日本にもあり、日本で買う方が安いと教えられ、買わずに帰ることになったお粗末な結果でした。

4日、スコッチウイスキーのお土産もなく、14時40分にエディンバラ空港を出発し、ロンドン・ヒースロー空港にて乗り継ぎ、5日17時15分、羽田空港に無事到着しました。



「ブレアリアル蒸留所」にて私達二人とガイド

● 6月12日～15日 北海道 サロマ湖：3泊4日

職員からサロマ湖100kmウルトラマラソンに行って来た話を聞き、私の心は激しくトキメキ、家族で行くことを急遽決めました。行ってみると、北方四島（①択捉島、②国後島、③色丹島、④歯舞群島）のうち、歯舞群島は、納沙布岬からわずか3.7kmの所にあり、ロシアとの争いは大変であることを実感しました。群馬でのんびりしていることが、この地域の人には大変申し訳ない気持ちにな



北方四島（左）と、「北方四島を返せー」と叫ぶ北海道の人達の像（右）

り、心が引き締まる思いがしました。そして、サロマ湖で何よりも勉強になったのが、1925年からこのサロマ湖と外海を繋げる水路の開削工事がおこなわれ、サロマ湖で育てたホタテ貝の稚貝が大きくなると外海に放ち、そこで成長させたホタテをこの地方の人々が採取して売り、そのお金を皆で平等に分けてきたということです。サロマ湖はこの地方の経済の中心であり、共同生活の基本である事がわかりました。

● 7・8・9月は毎週富山へ・鮎釣りとうぐるめの旅



この期間は毎週金曜日の夜20時30分頃に富山に着き、居酒屋で飲み、土曜は朝6時30分に朝食を食べ、漁場で7時30分より釣りを始めます。川の中でおにぎり1個の昼飯で釣りを続け、18時に宿に帰ります。「へとへと」になった体を風呂で癒し、19時から飲むビールは最高です。翌朝も6時30分に朝食を食べて漁場へ行き、昼には釣りを終えて風呂に入り、回転寿司で食事をして、高崎へ18時前後に戻る毎週です。

毎年シーズンが終わる頃には、シーズン初めよりも大幅に体力アップをしていることがわかります。これも釣りに行く大きな目的であり、ストレス解消になる事がなによりです。

● 10月10日～13日 和歌山・鮎釣りとうぐるめの旅：3泊4日

● 11月20日～24日 宮古島：4泊5日

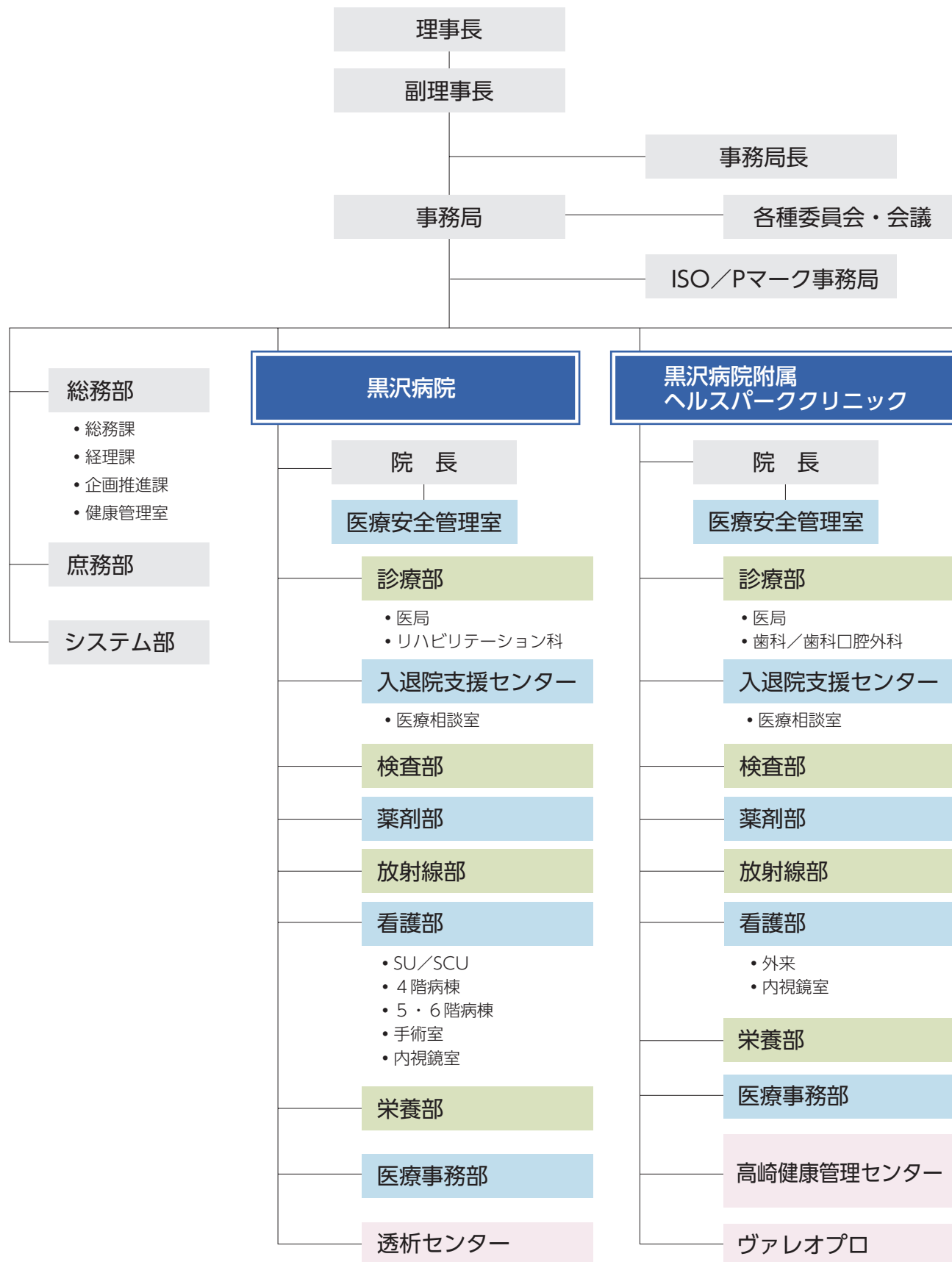
今回も毎日ゴルフと海の幸、グルメを楽しむ旅でしたが、今、宮古島は海上自衛隊のみが配置されていた時代から、この2～3年で航空・陸上自衛隊も含めた三軍が配置され、さらに防空壕も造られるなど、急速に防衛態勢を整えています。これらを見ると、群馬がいかに平和に慣れ、危機感が薄れていることを実感し、中国や台湾に近い沖縄の人々に対して申し訳ない気持ちになります。

この様に、この1年間の旅の目的は健康増進であり、ゴルフを中心とした旅行でした。そして、憧れのウイスキーのメッカであるスコットランドの名門蒸留所に行ってみると、なんと驚くことに、そこに日本のウイスキーが沢山展示されていました。また、高級スコッチウイスキーを買おうとしたところ、日本の方が安く買えると聞いて驚くと共に、「頂点は長くは続かない」という現実を体験できた事は私にとって大きな収穫でした。さらに、サロマ湖の近くの北方四島に近い集落や宮古島など、国境に近い地域では、日々緊張した生活を送っているということを実感し、大変勉強になりました。群馬にいても、いつも外国に接しているという気持ちで生活をしなければならないと思った次第です。



バックの100ヤードの太平洋を
2人共見事に超えました

1-8. 医療法人 社団美心会の組織





医療法人社団美心会は、機能別に施設の充実化に取り組み、
医療・保健・介護の各分野で、良質な医療サービスの提供に努めています。
美心会グループの各施設・職員全員が心を一つにして「医は美心なり」の考えを持ち、
社会貢献に日々努めております。

介護老人保健施設 老健くろさわ



病院から退院した方や生活機能が低下した方の在宅復帰を支援します。医師・看護師・介護福祉士・リハビリ・管理栄養士など、多職種が協力し、生活リハビリ訓練のサポートに努めています。

高崎東部福祉 総合相談センター



居宅介護支援、訪問看護、ホームヘルパー等、在宅生活を快適に過ごしていただけるよう各種サービスを提供しています。サービス付き高齢者向け住宅「ラ・ヴィオラ中居」やあんしんセンターくろさわ・岩鼻の運営もおこなっております。

介護付有料老人ホーム カーサ・デ・ヴェルデ黒沢



黒沢病院の向かいに建てられた、リゾートホテルのように快適で安心できる住み心地の有料老人ホームです。緑豊かな庭園、フィットネスやスパなどの充実した設備はもちろん、看護・介護スタッフがご入居者の個性を尊重したケアを提供します。

株式会社 ブラビック



卸売業、委託事業、車両リース、生活支援サービス「ベンリーくるさわ」を運営

社会福祉法人 ペレンナトリリアム シェステやまの花



多野郡神流町に開設。特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ホームヘルパーステーション、居宅介護支援センターなど、リハビリや介護相談など気軽に利用できる施設となっています。

社会福祉法人 マグノリア2000 シェステさとの花



高崎市乗附町に開設。特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、在宅介護支援センター、居宅介護支援センター、ケアサポートセンター、ユニット型特養、高齢者あんしんセンター、グループホームなど碓氷川のほとり、自然に囲まれた環境で様々な介護サービスを提供しています。

1-9. 医療法人 社団美心会の沿革

- 1977（昭和52年）12月 黒沢医院（病床数7床、透析病床数10床）開院
- 1980（昭和55年）2月 院外処方箋の発行開始
- 1985（昭和60年）6月 黒沢病院東棟完成（病床数43床、透析病床数20床）
- 1988（昭和63年）9月 高崎結石破碎センター開設
- 1989（平成1年）10月 黒沢病院西棟完成（病床数86床、透析病床数30床）
10月 高崎健康管理センターを開設
- 1991（平成3年）6月 脳ドック開始
- 1996（平成8年）11月 医療法人 社団美心会 設立
- 1997（平成9年）3月 病床数12床増加 98床となる
3月 訪問看護ステーションくろさわ開設
12月 社会福祉法人ペレンナトリウム設立（理事長：黒澤功）
- 1998（平成10年）10月 日本医療機能評価機構（一般病院種別A）認定取得
- 1999（平成11年）3月 医療法人 社団美心会シンボルマーク決定
4月 社会福祉法人ペレンナトリウムが特別養護老人ホーム「シェステやまの花」を神流町に開設
8月 居宅介護支援センターくろさわ開設
11月 ヘルパーステーションくろさわ開設
- 2000（平成12年）6月 社会福祉法人マグノリア 2000 を設立（理事長：黒澤功）
- 2001（平成13年）9月 オーダーリングシステムを導入
12月 ISO9001:2000を認証取得
- 2002（平成14年）2月 社会福祉法人マグノリア2000が特別養護老人ホーム「シェステさとの花」を乗附町に開設
- 2003（平成15年）11月 癒しと安らぎの環境賞 病院部門 優秀賞 受賞
- 2004（平成16年）10月 デイケアくろさわ開設
- 2005（平成17年）3月 人間ドック・健診施設機能評価を認証取得
5月 電子カルテ・システム（外来1次分）稼働開始
- 2006（平成18年）8月 プライバシーマーク認定取得
- 2007（平成19年）4月 レセプトオンライン開始
6月 黒沢病院附属ヘルスパーククリニック着工
9月 入院基本料7：1届出
- 2008（平成20年）1月 医療法人 社団美心会のシンボルマークをリニューアル
4月 DPC対象病院の認定を取得
10月 働きやすい病院評価認定取得
- 2009（平成21年）7月 黒沢病院附属ヘルスパーククリニックを開院（ドック病床19床）
疾病予防運動施設メディカルフィットネス&スパ ValeoPro（ヴァレオプロ）を同時オープン



黒沢医院



旧黒沢病院



シェステやまの花

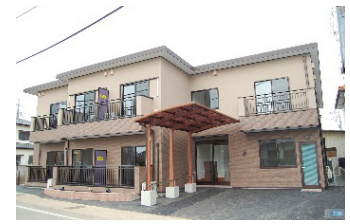


シェステさとの花



ヘルスパーククリニック

- 2010（平成22年） 4月 適合高齢者専用賃貸住宅（現・サービス付き高齢者向け住宅）「ラ・ヴィオラ中居」オープン
 5月 高崎健康管理センターが脳ドック学会認定施設となる
 9月 リハビリテーションセンターを開設
 10月 健康情報誌「BISHIN」が第10回ヘルスケア情報誌コンクールで最優秀賞受賞
- 2011（平成23年） 4月 内視鏡センター開設
 7月 腎センターを「透析センター」と改称し、43床から58床へ増床
 10月 “HISフォーラム2011 in 高崎”（NPO日本HIS研究センター主催）開催
 11月 ValeoProが厚生労働省の「指定運動療法施設」に認定
- 2012（平成24年） 3月 特定非営利活動法人 前立腺がん検診推進ネットワークを設立
 4月 健康情報誌BISHIN 100号達成
 5月 美心祭20回達成
- 2014（平成26年） 7月 黒沢病院新築移転（108床）、脳卒中センター開設
- 2015（平成27年） 4月 介護老人保健施設「老健くろさわ」開設
 黒沢病院130床に増床
- 2016（平成28年） 5月 農林水産省「病院等で花木を取り入れた活動事例集」医療機関17施設に選ばれる
 7月 高崎健康管理センター 健診部門開設
 8月 生活支援サービス ベンリーくろさわ高崎中居店を開設
 9月 ValeoPro ANNEX 開設
- 2017（平成29年） 4月 高齢者あんしんセンターくろさわ開設
 5月 美心祭25回達成
 12月 創立40年を迎える
- 2018（平成30年） 8月 健康経営優良法人2018（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（初）
 9月 介護付有料老人ホーム カーサ・デ・ヴェルデ黒沢開設
- 2019（平成31年） 2月 健康経営優良法人2019（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（2回目）
- 2020（令和2年） 2月 健康経営優良法人2020（大規模法人部門）認定取得（3回目）
 4月 帰国者・接触者外来開始、PCR検査開始
 11月 発熱外来仮設診療所を敷地内駐車場に設営し運用開始
- 2021（令和3年） 1月 新型コロナ感染軽症者宿泊療養施設への看護師派遣開始
 2月 健康経営優良法人2021（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（4回目）



ラ・ヴィオラ中居



新黒沢病院



カーサ・デ・ヴェルデ黒沢

- 新型コロナ感染症回復患者の受入開始
- 3月 新型コロナワクチン接種に関する高崎・安中地区の基本型接種施設に指定
- 5月 ヘルスパーククリニック高崎健康管理センターにて新型コロナワクチン接種開始
黒沢病院6階にてコロナ中等症患者受入病床運営開始（10床）
- 6月 コロナワクチン日曜接種開始
コロナ中等症患者受入病床12床に増床
- 7月 Gメッセ等に新型コロナワクチン接種のための医師、看護師の派遣開始
- 10月 Gメッセでの職域ワクチン接種実施
- 11月 コロナ中等症患者受入病床13床に増床
コロナ中等症患者受入病床16床に増床
群馬県より県営ワクチン接種センター 新型コロナウイルスワクチン接種推進による
- 12月 感謝状を拝受
- 2022（令和4年） 2月 院内での新型コロナワクチン接種数が3万件を超える
- 3月 健康経営優良法人2022（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（5回目）
内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ・システム」（Inntuitive Surgical社製da Vinci Surgical System）を導入
陰圧対応の多床室を設置
- 7月 ValeoPro リニューアル・オープン（全トレーニングマシンを入れ替え）
院内での新型コロナワクチン接種数が5万件を超える
- 12月 院内の細菌検査システム稼働
院内血液培養検査およびグラム染色を開始
- 2023（令和5年） 3月 健康経営優良法人2023（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（6回目）
- 4月 第11回 日本泌尿器科学会医療賞 受賞
- 10月 地下水活用システム稼働
- 12月 コロナ病棟閉鎖
- 2024（令和6年） 1月 日本医療マネジメント学会第11回群馬県支部学術集会を主幹病院として開催
- 3月 健康経営優良法人2024（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（7回目）
- 4月 日本脳卒中学会の一次脳卒中センターPSCコア施設に認定
- 2025（令和7年） 2月 手術用ロボットシステム「AQUABEAMロボットシステム」を導入
- 3月 健康経営優良法人2025（大規模法人部門（ホワイト500））認定取得（8回目）
- 5月 ヘルスパーククリニック CT・MRI刷新
- 9月 黒沢病院救急医療功労者厚生労働大臣表彰